

別紙 JKA補助事業 2019年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2020	年	2	月	28	日	作成者	教山 晃祐
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。				採点	
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	障害者グループホーム(定員:男性7名、構造:木造平屋建て)の新築工事について、補助金交付誓約時に提出した「事前計画/自己評価書(1/5)～(3/5①②)」及び補助金交付誓約後に承認を受けた「事前計画/自己評価書(3/5①②)計画変更用」の事前計画と対比して、計画変更承認後に初度調弁費に係る補助金交付申請額が変更となったこと以外は、事前計画のとおり実施することができた。				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	月1回の頻度で理事会を開催し、障害者グループホームの建築に係る意思決定及び進捗状況の報告を行うとともに、設計監理者や工事請負業者と密に連絡をとり、要望を正確に伝えることによって、順調に建築整備を行うことができた。 建築後は、管理者1名、サービス管理責任者1名、世話人4名、生活支援員2名、夜間支援従事者4名の職員体制で、入居者の支援にあたっている。			4	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 7名(全員男性) [達成状況] 100%	[具体的内容] 予定どおり、2019年12月の建築整備完了時まで、入居希望者数が定員数(7名)と同数になった。	4	
	事業の成果・波及	[達成値] 7名(全員男性) [達成状況] 86%	[具体的内容] 入居希望者のうち1名が特別支援学校高等部に在籍中であり、同校卒業後に入居する予定である。	3	
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1.ポスター:未掲示 チラシ:配布済 法人HP:掲載済 町広報誌:未掲載 2.法人HP:掲載済 新聞:掲載済	[達成状況] 80%(当該障害者グループホームの見学・視察者数80名)	[具体的内容] 1.ポスター:費用対効果の観点から、掲示しないこととした。 チラシ:関係行政機関の担当者、近隣の障害者福祉施設関係者、地域の福祉関係者、近隣住民等に配布した。 法人HP:当該障害者グループホームの完成についての案内を掲載した。 町広報誌:同一敷地内で建築整備中の他の障害者グループホームとあわせて、町の議会だよりに掲載される予定である。 2.法人HP:当該障害者グループホームの完成についての案内を掲載した。 新聞:地元紙の神戸新聞に掲載された。(令和2年1月19日朝刊) 1及び2の情報発信の結果、80名の当該障害者グループホームの見学・視察があった。	3
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1.ポスター:未掲示 チラシ:配布済 法人HP:掲載済 町広報誌:未掲載 2.法人HP:掲載済 新聞:未掲載	[達成状況] 80%(当該障害者グループホームの見学・視察者数80名)	[具体的内容] 上記1及び2で実施した方法のうち、チラシと法人HPについては、競輪の補助金による事業である旨を明示した。 その結果、80名の当該障害者グループホームの見学・視察があった。	3
(5) 自己評価の体制	委員長(責任者):小寺義裕(当法人の理事長)、外部委員2名:神河町役場健康福祉課課長、中播磨地区民生委員児童委員連絡会会長、当該障害者グループホームの入居者の家族代表1名、事務局員2名:津田孝代(当該障害者グループホームの管理者)、教山晃祐(当該障害者グループホームのサービス管理責任者)で構成される、自己評価委員会を令和2年2月28日に開催(所用により、中播磨地区民生委員児童委員連絡会会長は欠席)、自己評価を行った。当法人のホームページで評価結果の一部公表を行った。			4	

(b) 総合評価

総合評価点	4
-------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	当該障害者グループホームの新築により、7名の方の住まいの場を確保することができた。今現在の入居者は6名だが、入居者間のトラブルもなく、落ち着いた生活をされ、快適に過ごされている。入居者が、新たな“自分の家”で安心して楽しく生活をされ、気の置けない仲間とともに地域社会での共生の一步を踏み出されている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	当該障害者グループホームは、①郡部という地理的状況のなかにあっても、町の中心部に位置し、公共施設や商業施設へのアクセスが良好であるなど、障害者の地域生活を支えるのに十分な環境条件が整っている。②地元の住民の方々が非常に友好的であり、地元の行事への参加を呼びかけてくださるなど、共生関係を築いていきやすい地域性のなかにある。③郡内で唯一の総合病院に健康管理に関する業務を委託することにより、入居者の健康で安心な日々の生活を、地域社会との関わりのなかで実現している。 当該地域における障害者グループホームの利用ニーズは今後ますます高まっていくと考えられるため、それらの利用ニーズに応えられるよう、今回建築した当該障害者グループホームにとどまらず、受け皿(2棟目、3棟目の障害者グループホーム)を増やしていきたい。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	今回の障害者グループホームの建築地は、法人事務所と離れている場所であるため、計画当初は建築地周辺の住民との関係調整が心配されたが、関係行政機関や地元区の積極的な協力のもとで住民説明会を開催し、地域住民の方々の理解と協力が得られたことで、順調に事業を遂行することができた。今後も地域社会との積極的な交流を図り、地域社会の一員としての役割と責任を担うことによって、地域社会との良好な関係を維持、発展させていきたい。

別紙 JKA補助事業 2019年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部 要 因			(1) 経費	(2) 関係行政機関の積極的な協力(公有地の賃貸借、公立総合病院との医療連携など)により、円滑に事業を実施することができた。	
	*		(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部 要 因			(8) 受益者の規模・ニーズ	(9) 地元区の積極的な協力(住民説明会の開催、地元行事への参加の呼びかけなど)により、円滑に事業を実施することができた。	
	*		(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生(地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
		(15) その他			
		(16) 特になし			